

I -1 計画地の特性

(4)眺望

特性-5 眺望

- 「藁」から若草山などに向けての眺望
 - ・旧公会堂においては建築及び庭園から若草山などへの眺望が活かされていたが、建替により眺望は庭園からに限定されている。
 - ・庭園の空間構成は基本的に旧公会堂の頃と同様であり、若草山への眺望は庭園の景観構成要素として重要である。
 - ・現在、庭園から若草山への眺望は、尾根部の高木が生長し大きく阻害されている。近年植栽管理により剪定が実施され、眺望は僅かに回復しているが十分ではない。
- 尾根部から奈良盆地に向けての眺望景観
 - ・尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、奈良盆地の景色が広がる中に「藁」、五重塔、生駒山等が眺められる。このような奈良盆地に向けて眺望が良好な箇所は奈良公園内では数少ないことから、積極的に活用すべき資源ある。
 - ・現在は、尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、低木及び高木が生長し大きく阻害されている。
- 周辺地からの眺望の景観対象
 - ・尾根部のサクラ等は、周辺地からの眺望の景観対象となっている。特に、浮雲園地から若草山に向けての眺望景観は、奈良公園でも特に重要な眺望景観として位置づけられており、尾根部のサクラ等は景観対象として重要な役割を担っている。

I -1 計画地の特性

1)「麓」から若草山などに向けての眺望景観

①公会堂・奈良倶楽部の眺望景観

- ・「麓」に改修される以前の眺望景観について整理しておく。
- ・公会堂と奈良倶楽部は連なって配置されており、奈良倶楽部は木造3階建ての建築物で、上部の楼から南大門から大仏殿、若草山、御蓋山の眺望が十分に臨めるものであった。また、奈良倶楽部は南西寄りに配置されており、若草山への眺望に最も適したものであった。

【奈良県倶楽部】

奈良公園春日野大運動場の一方にありて南面し、公会堂と相連なり、閑静の一境を占む、明治二十三年の建築にして楼上に東大寺大伽藍東西に諸名山を望み、庭上砂浄くして、県内の内外大賓を迎うるや……

出典「大和名勝写真帖」奈良県発行

【倶楽部】

奈良倶楽部は、県有建物にして結構優麗春日、若草山を一眸に集め風景頗みる佳なり

出典「奈良名勝写真帖」大正4年発行



写真：奈良倶楽部(公会堂)
大正3年撮影 出典イ



写真：「若草山から西方の旧奈良県公会堂をのぞむ」明治41年撮影 出典ロ
※原画では右奥遠方に国立博物館、五重塔が見える。



写真：南西位置から 昭和50年頃撮影
出典ハ



写真：建替工事中 昭和61年撮影
出典イ



写真：ひょうたん型の池の北部
昭和35年撮影 出典ハ

- イ：「目で見える大和路」藤井辰三
- ロ：目で見える奈良市の100年
(明治～戦後)
- ハ：「奈良公園の古写真募集」
応募写真
- ニ：奈良公園事務所所蔵



図：実測図面 奈良文化財研究所 昭和30年代

I -1 計画地の特性

②「葦」から若草山への眺望景観

- ・「葦」は、建築面積約4,715m²の大規模な建築物であり、大きな瓦屋根が特徴となっている。庭園を觀賞できる諸室としては、左右のロビー及び中央のレストランがある。
- ・「葦」を補完する施設として、平成27年に計画地北側に別館(旧公園管理事務所)が設置され、本館と別館をつなぐ部分には屋根付きの連絡通路が設けられている。
- ・本館2階部分からは屋根との位置関係により眺望はできない。よって眺望点は1階ロビー及びレストランとなるが、若草山方向に向けては尾根部の生長した樹木のため、若草山がほとんど隠れている。レストラン前ポーチ(地点A)からの眺望も若草山はほとんど隠れているが、ポーチ南端からの眺望は幾分改善される。



写真:レストラン前ポーチから若草山に向けての眺望 地点Aから



写真:庭園の南西端から若草山に向けての眺望 地点Bから



写真:整備直後(1992.11)庭園南西端から若草山に向けての眺望 地点Bから

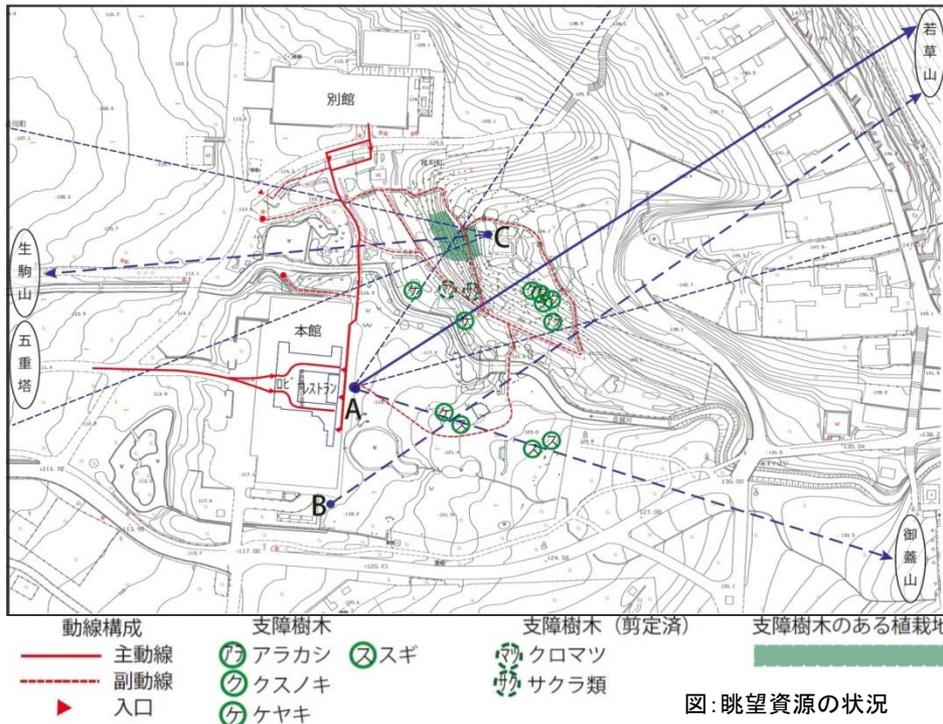
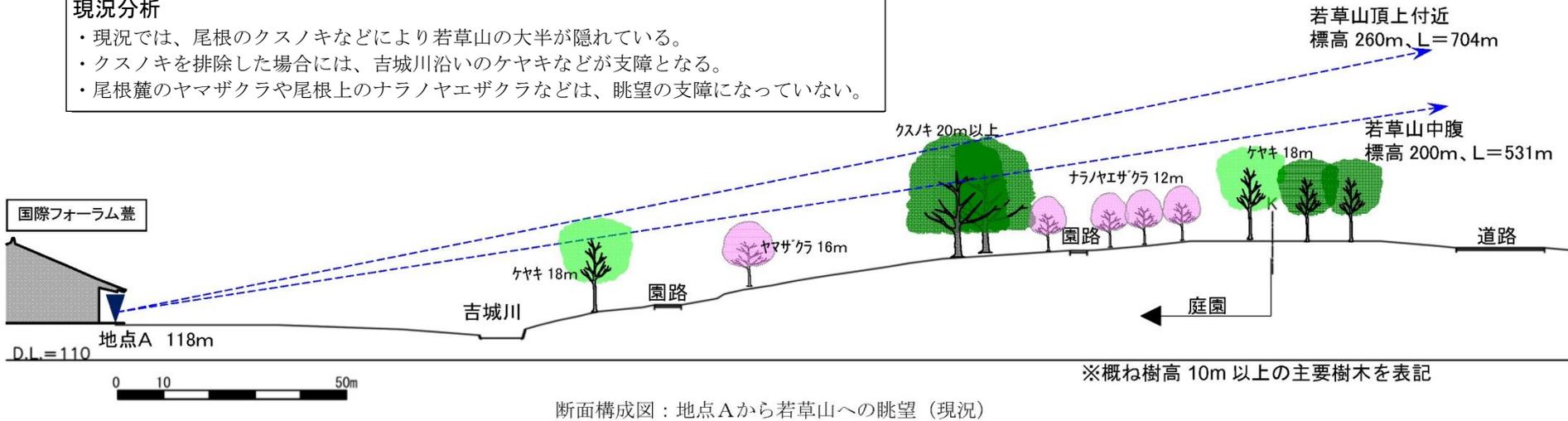


図:眺望資源の状況

I -1 計画地の特性

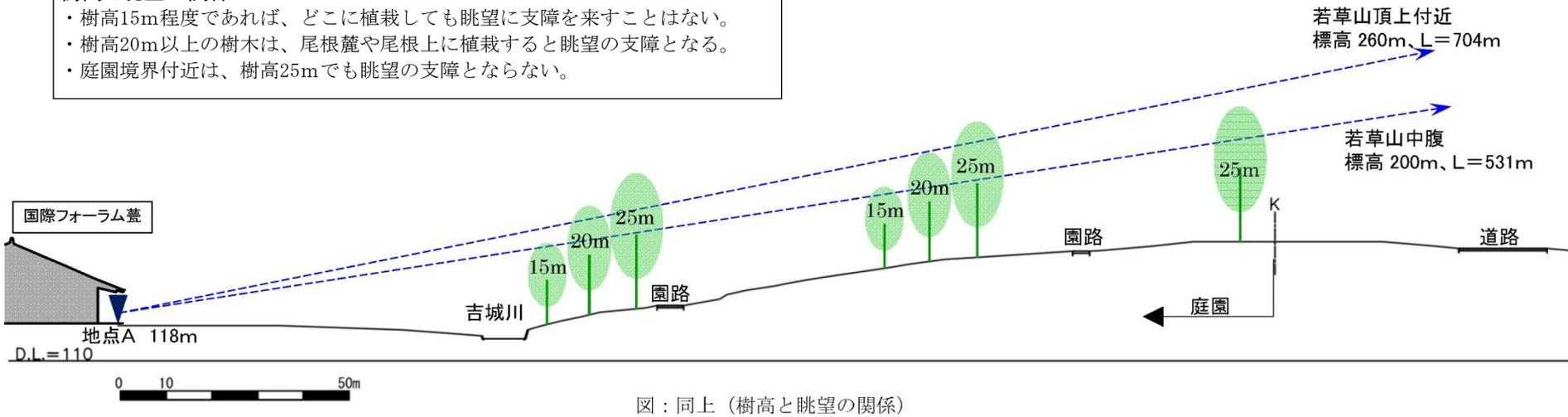
現況分析

- ・現況では、尾根のクスノキなどにより若草山の大半が隠れている。
- ・クスノキを排除した場合には、吉城川沿いのケヤキなどが支障となる。
- ・尾根麓のヤマザクラや尾根上のナラノエザクラなどは、眺望の支障になっていない。



樹高と眺望の関係

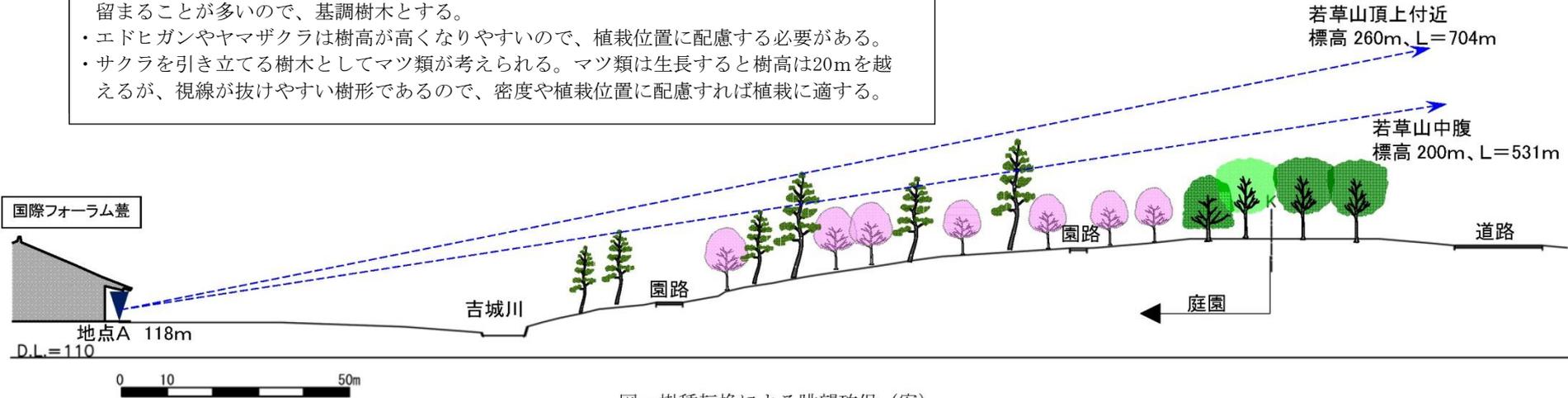
- ・樹高15m程度であれば、どこに植栽しても眺望に支障を来すことはない。
- ・樹高20m以上の樹木は、尾根麓や尾根上に植栽すると眺望の支障となる。
- ・庭園境界付近は、樹高25mでも眺望の支障とならない。



I -1 計画地の特性

眺望確保(案)

- ・ナラノヤエザクラやナラノココノエザクラなどは生長が遅く、生長しても樹高15m程度で留まることが多いので、基調樹木とする。
- ・エドヒガンやヤマザクラは樹高が高くなりやすいので、植栽位置に配慮する必要がある。
- ・サクラを引き立てる樹木としてマツ類が考えられる。マツ類は生長すると樹高は20mを越えるが、視線が抜けやすい樹形であるので、密度や植栽位置に配慮すれば植栽に適する。



図：樹種転換による眺望確保（案）

I -1 計画地の特性

③「麓」から御蓋山への眺望景観

- ・レストラン前ポーチ(地点A)から御蓋山への眺望は、樹木が生い茂っているため御蓋山がほとんど隠れているが、ポーチの南より部分には木の間越しに御蓋山が見られるところがある。
- ・御蓋山から春日大社境内一帯は深い樹林に覆われており、御蓋山への眺望は正面参道の一部に限られている。このことを踏まえると「麓」から御蓋山への眺望は、意図的に見えるようにするものではなく、場所によっては木の間越しに見えるという現状で適切と思われる。

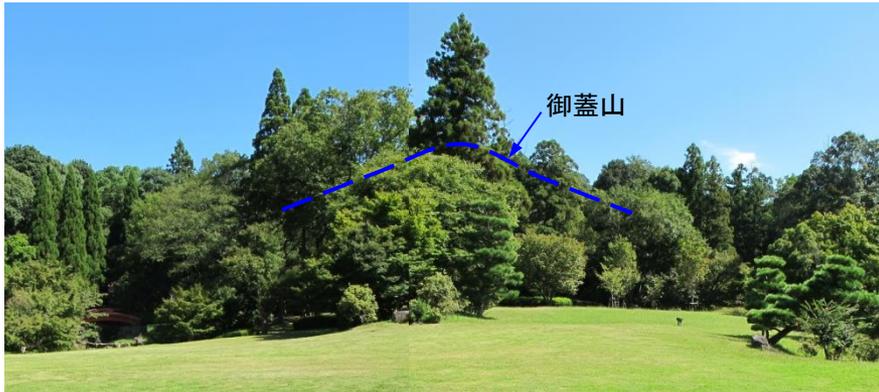


写真: レストラン前から御蓋山に向けての眺望 地点Aから

2) 尾根部から奈良盆地に向けての眺望景観

- ・尾根部から奈良盆地に向けての眺望は、生長した樹木によりほとんど見えない。
- ・樹木の剪定や配植の見直しにより、遠景には奈良盆地と生駒山、近景には五重塔から東大寺南大門が俯瞰できるものと考えられる。

(22頁 図: 眺望資源の状況 参照)



写真: 尾根部副園路上の眺望点からの眺望 地点Cから

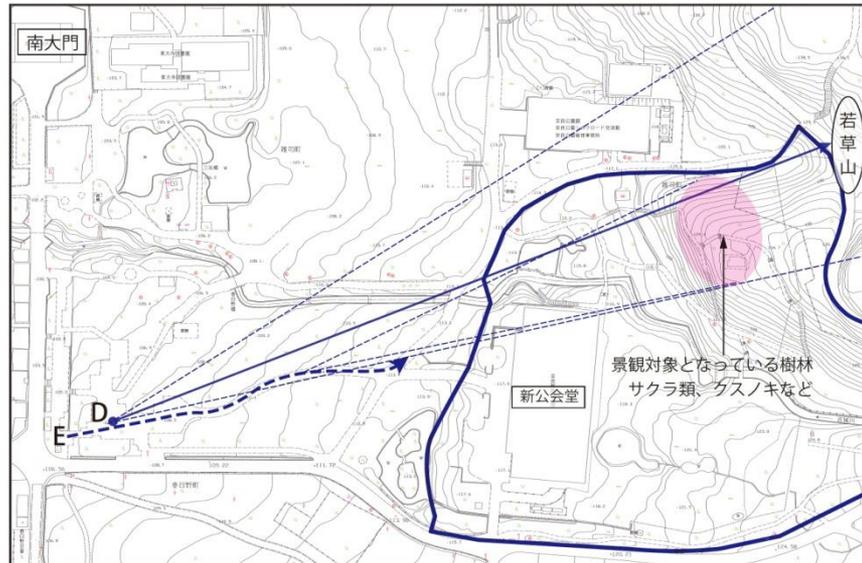


写真: 尾根部休憩所南東の植栽地内からの眺望 地点Cの南東から

I -1 計画地の特性

3) 周辺地からの眺望の景観対象

- ・尾根部のサクラ等は、周辺部からの眺望の景観対象となっている。
- ・特に、浮雲園地から若草山に向けての眺望景観は、奈良公園でも特に重要な眺望景観として位置づけられており、尾根部のサクラ等は景観対象として重要な役割を担っている。



D ● → 重要な眺望景観

E --- → 眺望が楽しめる動線

周辺地からの眺望の景観対象



赤枠内: 庭園内尾根部のサクラ類やクスノキ H26年4月 地点D付近から

I -1 計画地の特性

追加項目:委員意見⑩の関連項目

(5)庭園利用

1)利用状況

- ・庭園は「菴」の施設の一部として管理運営されており、本館休日である月曜日と庭園の貸切利用日は、一般利用者は入園できない。
- ・庭園利用は、本館周辺の手入れが行き届いた「庭園の景観が楽しめるゾーン」と、尾根部の「自然な植栽景観が楽しめるゾーン」に大別できる。
- ・ひょうたん池より南側の部分の利用は少ない。

2)動線の利用状況

特性-6 動線の利用状況

- ・一般来園者と会館利用者は利用状況が異なる。総合して利用が多いのは①本館前、次いで②連絡通路、③~⑤その他となる。
- ・③~⑤は急な階段があることや園路の行先が分かりにくいため利用が少ないと考えられる。
- ・⑥池南の芝地の動線利用は、レストランからの眺望や会館利用時の運営に支障を来すので施設運営との調整が必要である。

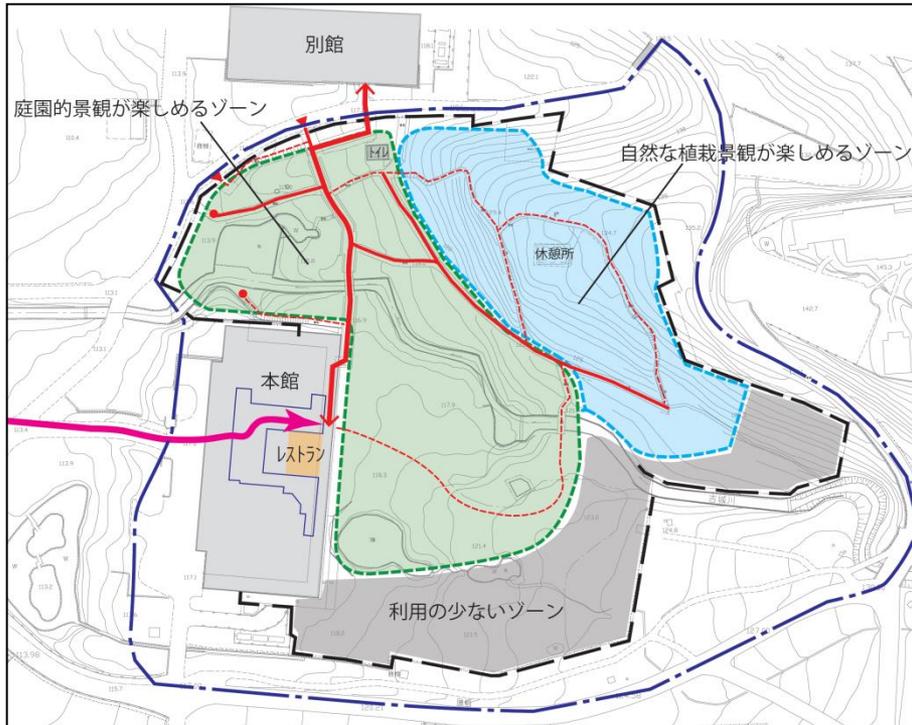
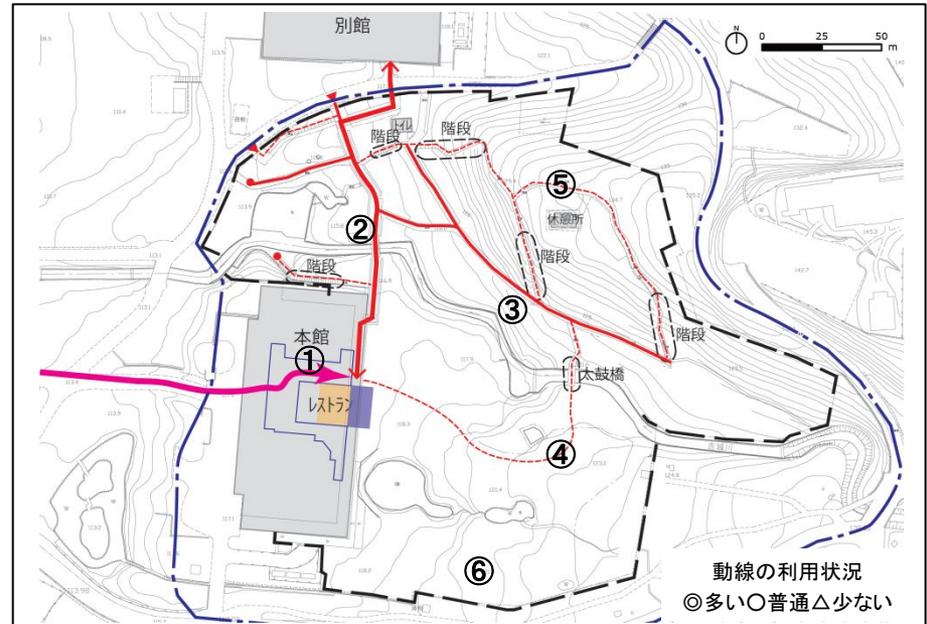


図:庭園利用の状況



- ➡ メインアプローチ
- ↔ 主動線
- 動線 (車椅子対応)
- - - 動線 (車椅子非対応)
- 行き止まり
- ▶ 庭園入口
- ⋯ 階段等
- 立入抑制
- 庭園境界柵

	一般来園者	本館利用者	別館利用者
①本館前	◎	◎	◎
②連絡通路	◎	○	◎
③尾根裾園路	○	○	○
④尾根上園路	○	△	△
⑤奥まった芝地	△	△	△
⑥池南の芝地	動線なし		

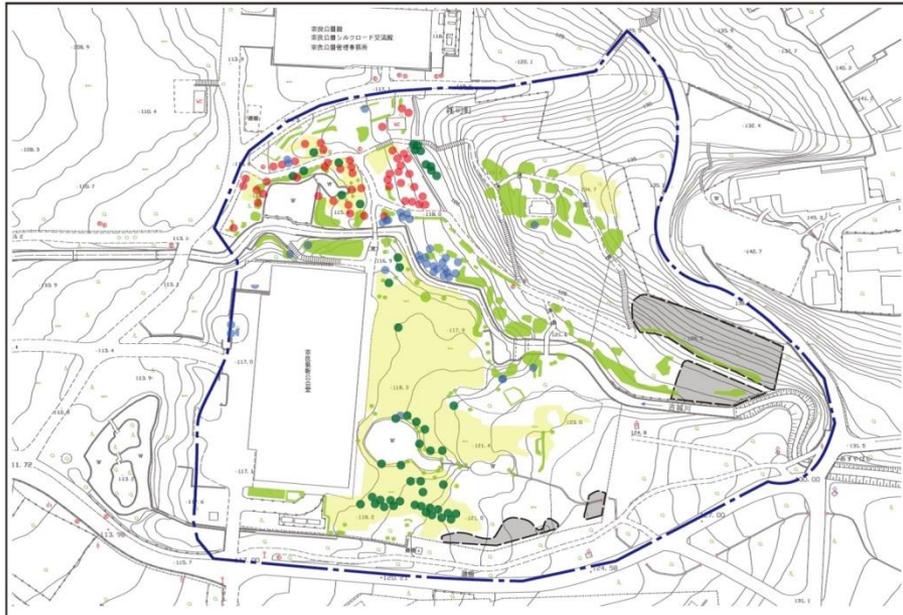
図:動線の利用状況

I-1 計画地の特性

(6) 植栽管理等

1) 植栽管理の状況

- ・庭園の植栽管理は、「葦」から奈良公園事務所に委託されている。
- ・庭園内の植栽管理で大きな作業量の項目は、以下のとおりである。
 1. マツ類の仕立て剪定(エントランス部含む)
 2. 低木刈込み
 3. 芝刈
 4. 除草・清掃等 ※以上、植栽管理スタッフにヒアリング
- ・庭園内で定期的な管理を行っている植栽は、下図のとおりである。



図：植栽管理の状況

- ● ● 高木剪定
- 低木剪定
- 芝刈
- 林床管理なし

2) その他の課題

①水施設に関わる課題

- ・吉城川等に堆砂する土砂量が多く、対応に苦慮している。
- ・池等の水質悪化のため藻が繁茂したり、土壌中の鉄分が湧出して見た目が悪い。
- ・吉城川の水涸れやひょうたん池の補給水不足が生じる。

②園路・階段等に関わる課題

- ・尾根部の階段が滑りやすく、手摺り等もない。高齢者などの利用が難しい。太鼓橋も同様である。

③低木管理に関わる課題

- ・水路際や本館前芝地周辺の低木群植は、利用者の立ち入り抑制や照明設備修景の機能があり、配植の見直しには配慮が必要である。

④野生動物に関わる課題

- ・柵等を設置しているが、イノシシやシカの侵入による被害が度々発生している。

I - 2 上位計画等の整理

(1)法規制

計画検討に関わりが大きい法規制

計画検討に関わりが大きいものは、名勝奈良公園及び史跡東大寺旧境内、史跡春日大社境内の指定である。

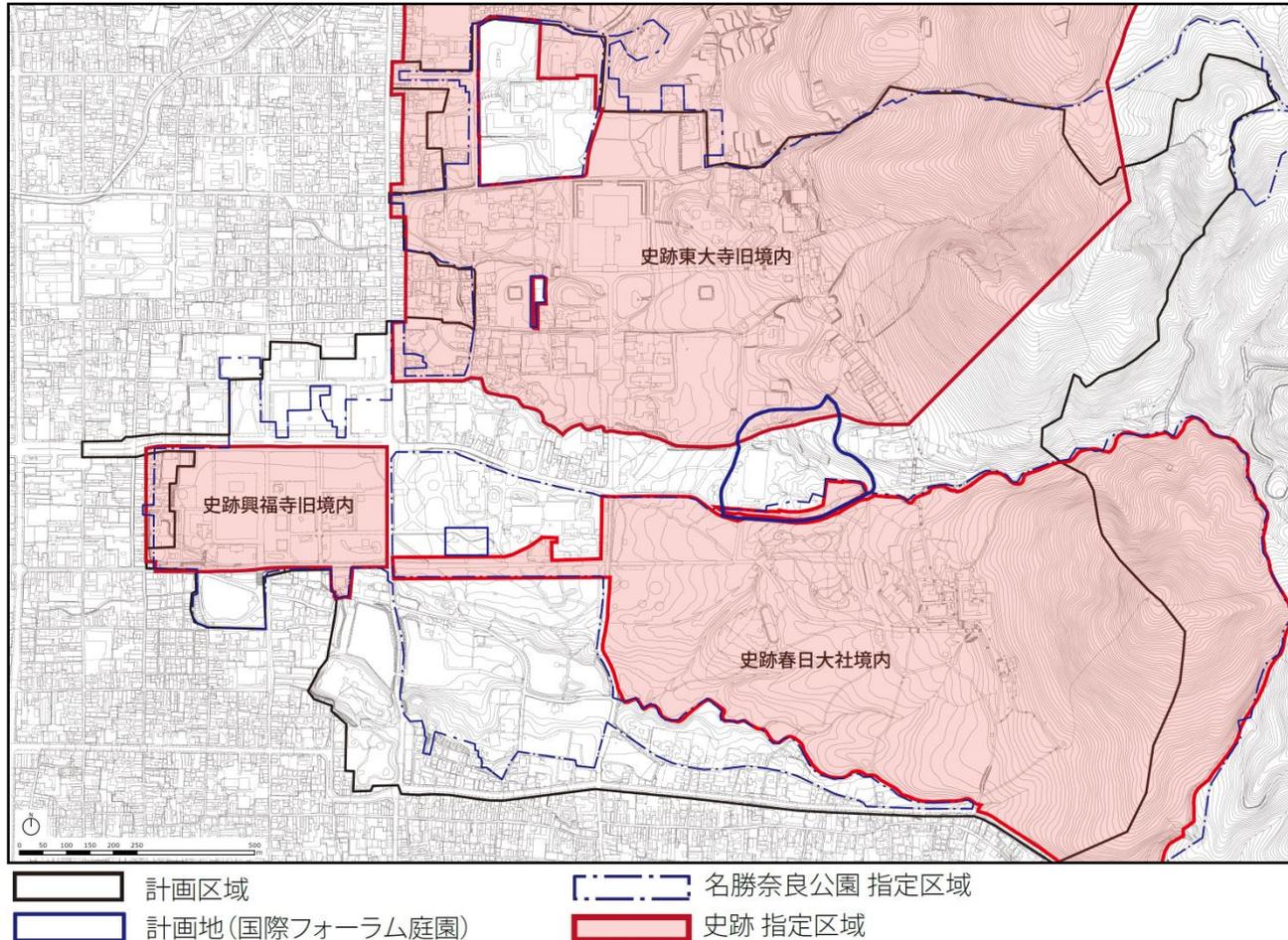


図:名勝奈良公園及び史跡東大寺旧境内

I-2 上位計画等の整理

(2)上位計画

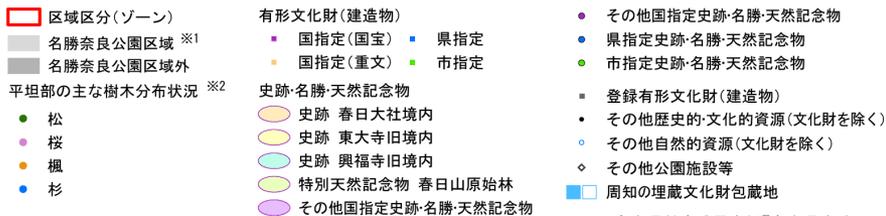
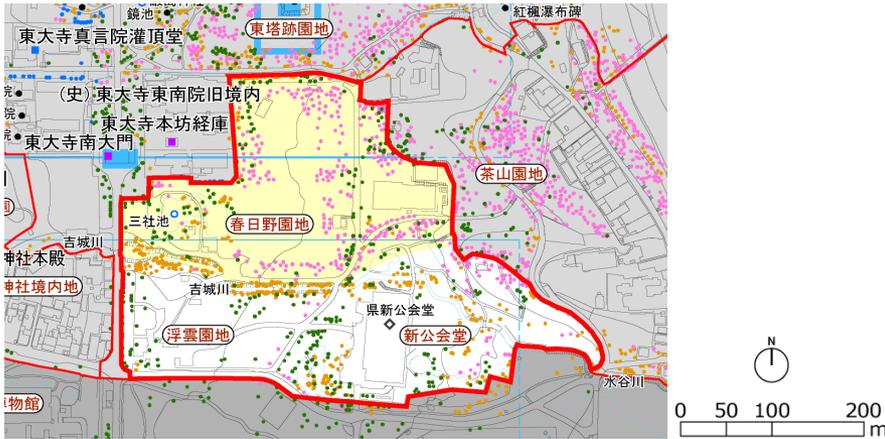
1)名勝奈良公園保存管理・活用計画

本計画の計画検討に関わりの大きい部分として、「2-2. 区域毎の本質的価値を構成する要素と保存管理・活用の主な考え方ー春日野園地・浮雲園地ゾーン」を抜粋する。

「区域の保存管理・活用の基本方針」 名勝奈良公園保存管理・活用計画より抜粋

(3) 春日野園地・浮雲園地ゾーン

本質的価値を構成する要素および関係する法制度等



※1 奈良県教育委員会編『奈良県史跡名勝天然記念物集録1』を基に作成

※2 奈良県資料『公園樹木台帳』および奈良公園史編集委員会編『奈良公園史』附図「奈良公園潜在自然植生図及平坦部樹木分布図」、現地調査によりH21.10作成

区域の保存管理・活用の基本方針

造営時から現在に至る整備・活用の変遷をふまつつ、奈良公園の著大な眺望景観を望む視点場と、そこからの眺望景観の保全を図るとともに、名勝奈良公園における活用の中心として公園の有する質の高い風致景観に配慮した整備・活用を図る。

個別要素の保存管理・活用の主な考え方

自然的要素に関わる考え方

- ・ 吉城川の適切な水環境(水質及び水量、生態系)の保全と園地活用の調整に配慮する。

歴史的・文化的要素に関わる考え方

- ・ 史跡東大寺旧境内に一部重複することから、遺跡・遺構等の現状保存を図るとともに、園地活用との調整に配慮する。

公園的要素に関わる考え方

- ・ 眺望景観の保全のため、視点場としての園地景観の維持管理を図る。
- ・ 園地については、当地の景観を特徴づける松、桜、楓等の植栽樹木の適切な維持管理を図るとともに、公園の風致に配慮した整備・活用を図る。

その他要素に関わる考え方

- ・ 奈良県新公会堂等の奈良公園のレクリエーションやコンベンション機能を支える施設については、公園の風致に配慮した整備・活用を図る。



奈良県新公会堂

I -2 上位計画等の整理

2)公園全体の植栽方針

奈良公園植栽計画(案)の「公園全体の植栽方針」で設定された方針より、本計画の計画検討に関わりが大きい方針を抜粋する。

	主な内容
方針-1 基本的な 考え方	公園開設当初から受け継がれている基本的な考え方を踏襲する。 ○古来より継承されている樹林・樹木を保全し、 <u>自然の地勢に従った植栽</u> とする。 ○植栽地の特性にあわせてマツ、スギ、サクラ、カエデを植栽し、これを基調とする。
方針-2 植栽樹種	植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定する。
方針-3 ナンキンハゼ	ナンキンハゼは自然環境の保全に支障を来す恐れのあることから、原則として駆除する。
方針-7 花木類の 配植	花木類は、奈良公園の歴史文化や景観との調和を図り、公園の魅力をアピールする配植とする。 ○配植方針 ①歴史的・文化的に重要な花木類を保全・継承する。 ②景観的に重要な花木類を保全・継承する。 ○各ゾーンの植栽計画において配慮すべき事項 ③マツやスギ、芝地等の花木類の背景となる植栽と調和した配植とする。 ④立地や他の植栽との関わりから花木類の魅力が引き出せない場合は、花木植栽を控える。 ⑤開花期の他に新緑期、紅葉期、落葉期の景観に配慮した配植とする。

	主な内容
方針-8 サクラ類 の配植	サクラ類は、既存の樹種・品種を基本に開花期の違いを活かした配植とする。 ○配植方針 ①樹種・品種の混植を控え、できるだけ同じ開花期のサクラ類をまとめて配植する。 ②各植栽地の歴史文化特性や景観特性を尊重した配植とする。 ・重要な眺望景観の構成要素となるサクラ類は、眺望に配慮した配植とする。 ○各ゾーンの植栽計画において配慮すべき事項 ③多様な園芸品種のサクラ類は、庭園や見本園などを主体に配植する。 ④開花時期の違いを活かした配植を検討する。 ⑤樹種・品種による寿命の違いに留意した配植を検討する。

I -2 上位計画等の整理

	主な内容
方針-9 常緑・落葉 広葉樹の 配植	<p>常緑・落葉広葉樹は、歴史文化的経緯や自然特性に基づいた配植とし、植栽地の立地特性や他の植栽との調和に配慮する。</p> <p>○配植方針</p> <p>①古都に相応しい大径木の保護・育成に配慮した配植とする。</p> <p>②歴史文化的経緯や自然特性に由来する大径木の分布傾向を参考に配植する。</p> <p>平坦部の草地やその周辺に点在する大径木が多い樹種 :クスノキ</p> <p>東大寺(旧境内地含む)に大径木が多く見られる樹種:イチョウ 水系沿いに大径木が多く見られる樹種:ケヤキ、エノキ</p> <p>○各ゾーンの植栽計画・植栽管理計画において配慮すべき事項</p> <p>③各植栽地の景観との調和に配慮した植栽とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常緑・落葉広葉樹は、マツ林や花木林や芝地への配植は控え目とする。これらに混植する場合は、樹木生長にあわせて密度管理を行う。 ・眺望景観への影響が大きい植栽地は、樹高に配慮して配植する。 ・視線の遮蔽が必要な植栽地は、常緑広葉樹を優先して配植する。

	主な内容
方針 -10 針葉樹の 配植	<p>針葉樹は、公園開設当初から受け継がれている基本的な考え方に基づき配植する。</p> <p>○配植方針</p> <p>①古都に相応しい大径木の保護・育成に配慮した植栽とする。</p> <p>②公園植栽の基調となる針葉樹として、マツ類、スギ、モミを配植する。</p> <p>○各ゾーンの植栽管理計画において配慮すべき事項</p> <p>③マツ類は松食い虫対策を確実に実施する。</p> <p>④マツ類の松食い虫対策の効果が完全でないことを踏まえて、早期に補植を実施する。</p>

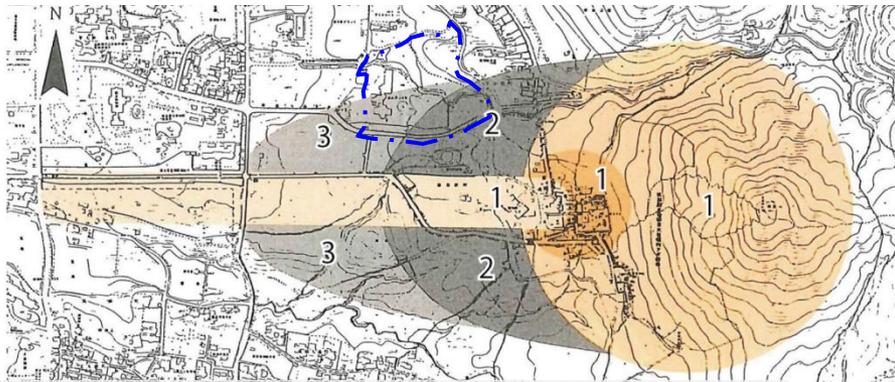
I -2 上位計画等の整理

3)春日大社境内整備計画書

本計画地の南側の敷地は春日大社境内地であり、ここについては春日大社境内整備計画書が上位計画にあたる。以下、本計画地に関わりが大きい部分を抜粋する。

①基本構想—地区区分

本計画地内の春日大社境内地の大半は、基本構想において「2.春日大社の神域性を演出する緩衝地帯」と位置づけている範囲に含まれている。



- 1. 春日大社の宗教儀礼空間の中核。
- 2. 春日大社の神域性を演出する緩衝地帯。
- 3. 奈良公園地と連続して半ば公園的利用が行われている地域

図：春日大社境内地の空間構造出典：春日大社境内整備計画書78頁

②整備計画—地区別整備計画

本計画地内の春日大社境内地は、整備計画においてB施設地区—B-5末社地区に区分され、以下のとおり計画されている。

細区分地区	整備計画
B-5末社地区	地区内の末社は定期的な修理等によって現状を維持保存する。



図：施設地区 地区区分図 出典：春日大社境内整備計画書99頁

I - 3 草花類植栽の検討

新規追加項目

草花類植栽の検討(案)

奈良公園植栽計画検討委員会において、奈良公園の草花類植栽の導入について検討されており、本計画地は「制限区:シカを制限する区域」のモデル地区として検討されている。本計画では、草花類植栽の導入も合わせて検討を進めるものとする。

①草花類植栽の植栽方針—制限区の植栽方針

- ・制限区の草花類植栽は、各区域の土地利用や景観特性を最大限に活かした植栽とする。
- ・草花類の配植は、彩りの効果を高めることに重点を置く。
- ・草花類植栽は、修景効果、管理省力化に十分配慮して、持続可能なものとする。

②制限区の配植の検討

修正:委員意見⑥に対応

検討条件-1 草花類植栽導入の目的等

草花類の導入によって、庭園としての魅力の向上を図る。

検討条件-2 草花類に期待される開花期

導入する草花類としては、5月~7月、9月~10月に開花する草花類を選択する。

検討条件-3 草花類の植栽管理

大半の草花類植栽は放任、又はこれまでの花木管理と同程度の水準となることを前提とする。

③植栽候補地の考え方

植栽候補地の考え方

- ・平坦地の動線から観賞できる範囲とする。
- ・大きな基盤整備を伴うところは除外する。
- ・魅力ある植栽演出が可能であると想定される範囲とする。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サザンカ	■											■
ウメ		■										
ヤブツバキ			■									
トサミズキ			■									
アセビ			■									
モクレン類			■									
サクラ類			■									
シャガ				■								
ヒラドツツジ				■								
キシマツツジ				■								
サツキツツジ				■								
サルスベリ							■					
モミジ類(紅葉)									■			
なら瑠璃絵		■										
なら燈花会									■			

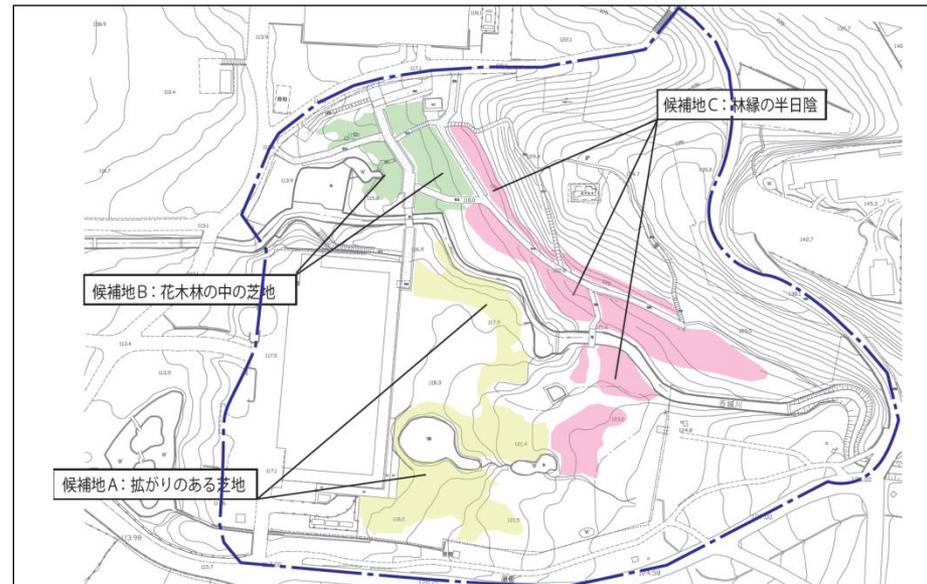


図:草花類の植栽候補地

I —3 草花類植栽の検討

④配植の考え方

修正:委員意見⑤に対応

- ・草花類は庭園と調和する「和の風情」のある種とする。
- ・草花類の背景となる庭園の既存植栽や地形を活かし、これと調和した草花類植栽とする。
- ・草花類により風景や植栽の魅力を発揮させ、来園者に印象が残るものとする。
- ・草花類により、年間通じて花が楽しめる庭園とする。特に5月～7月、9月～10月に開花する草花類に重点をおく。
- ・草花類植栽は、庭園の植栽管理に無理なく組み込めるものとする。

⑤候補地の配植(案)

		植栽方針			植栽候補種
		考え方	庭園との調和	開花時期	
A	拡がりある芝地	・芝地と若草山まで連続する眺望を主要素とするメインビューの景観を高め、これに彩りを加えるため草花類植栽を行う。	刈込まれた芝生と調和する草花類	9月～10月に開花する草花類	ヒガンバナ シロバナヒガンバナ サフランモドキ モモイロタマスダレ タマスダレ
B	花木林の芝地	・既存のウメ、サルスベリの花景観の質向上を図ることとあわせて、魅力をより一層高めるため草花類植栽を行う。	ウメやサルスベリと調和する草花類	ウメ、サルスベリの開花期にあわせる	スイセン、スノードロップ(2～3月) ナツズイセン、タカサゴユリ(8月)
C	林縁の半日陰	・庭園としては規模が大きな草花景観を作ることから、アピール性の高い草花類植栽を行う。 ・背景樹林や地形を活かして、特徴のある新たな花の景色づくりを行う。	林縁の自然な植栽景観と調和する草花類	5月～7月、9月～10月に開花する草花類に重点	シャガ アジサイ カシワバアジサイ アガパンサス アスチルベ シュウメイギク

表:植栽候補地別の配植(案)

A. 拡がりのある芝地 植栽候補種

種名	開花期	花色	開花高さ	形態	管理	備考
ヒガンバナ	9月	赤	30～50cm	球根(冬緑型)	放任	中国原産 古代に渡来
シロバナヒガンバナ	9月	白・薄黄	20～30cm	球根(冬緑型)	放任	中国原産 古代に渡来
サフランモドキ	8～9月	ピンク	20～30cm	球根	放任	南米原産 1845年渡来
モモイロタマスダレ	8～9月	ピンク	20～30cm	球根	放任	南米原産 明治初期に渡来
タマスダレ	8～9月	白	20～30cm	球根	放任	ペルー原産 明治初期渡来



ヒガンバナ



シロバナヒガンバナ



サフランモドキ



モモイロタマスダレ



タマスダレ

I —3 草花類植栽の検討

B. 花木林の芝地 植栽候補種

種名	開花期	花色	開花高さ	形態	管理	備考
(ウメの開花期に近いもの)						
スイセン(園芸種)	2~3月	白・黄	20~50cm	球根 (冬緑型)	放任	地中海沿岸原産、 古来に渡来
スノードロップ	2~3月	白	20~30cm	球根 (冬緑型)	放任	ヨーロッパ~ コーカサス原産
(サルスベリの開花期に近いもの)						
ナツズイセン	8月	ピンク	50~70cm	球根 (冬緑型)	放任	中国原産 古代に渡来
タカサゴユリ	8月	白	50~ 100cm	球根	放任	台湾原産 大正時代に渡来



スイセン



スノードロップ



タカサゴユリ



ナツズイセン

C. 林縁の半日陰 植栽候補種

種名	開花期	花色	草丈(花部)	形態	管理	備考
シャガ	4~5月	白	40~60cm	宿根	放任	既存 中国原産 古代に渡来
アジサイ	6~7月	紫・白・ピンク他	40~150cm	低木	剪定	既存 日本在来種
カシワバアジサイ	6~7月	白	150~ 200cm	低木	剪定	北アメリカ原産
アスチルベ	6~7月	白・ピンク・赤	40~100cm	宿根	放任	東アジア他原産
ヤマユリ	7月~8月	白	120~ 200cm	球根	放任	日本在来種 (主に中部以北)
シュウメイギク	9月~10月	白・ピンク・赤	60~100cm	宿根	放任	中国原産 古代に渡来



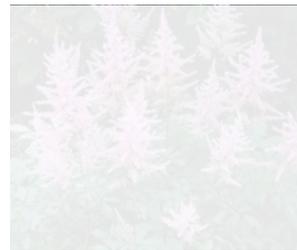
シャガ(計画地)



アジサイ



カシワバアジサイ



アスチルベ



ヤマユリ



シュウメイギク